

第 6 回学術フォーラムの結果概要

開催日時・場所
<p>平成 29 年（2017 年）7 月 31 日（月） 14 時 00 分～16 時 00 分 滋賀県庁北新館 5 - B 会議室</p>
出席委員
<p>井手委員、清水委員、田中賢治委員、津野委員、西野委員、平山委員、堀越委員、脇田委員 （欠席：佐野委員、田中克委員）</p>
主な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・マザーレイク 21 計画の指標を整理し、琵琶湖の状態を把握するための資料「びわ湖と暮らし 2017（案）」について、内容の妥当性と効果的な編集に向けた意見を委員からいただいた。
主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べて随分バージョンアップしており、年々良くなってきている。さらに、一般の方たちが自分の暮らしと琵琶湖の変化がどう結び付いているのかということが見える化すると、よりよくなると思う。 ・生態系保全も視野に入れた水質管理について考える際に、水質とはどの部分で、生態系保全とはどの部分という、どこからどこまでを水質の守備範囲とするのかというところが分かりにくくなっているので、整理が必要と感じる。 ・河川の環境基準の達成率は 100 パーセントとなっており、琵琶湖へ流入する水質は問題ないが、琵琶湖全体を見ると悪い指標があり、琵琶湖の環境基準として国で定めている基準だけを見ていていよいよかと感じる。琵琶湖の環境を守る上での基準というのが、もう一つ高いレベルであっても良い。 ・自然と人との接点が少なくなっている。自然との触れ合いがなくなり、ますます自然との付き合い方が分からなくなる悪循環になっている。琵琶湖再生計画で琵琶湖を利用するといった時に、安心して自然を楽しめるプログラムが非常に重要なのではないかと思う。
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・今後さらにわかりやすく琵琶湖の現状を伝える資料となるよう、いただいたご意見を参考に、記載内容や表現方法等を工夫していく。